

常照

第 7 7 5 号

お守りを持たない理由

どこの神社でもお守りは売られていますし、お寺でも置いていないところの方が珍めづしいくらいです。形もさまざまで、昔からのお札おた、かばんなどにぶらさげるもの、またかわいしいシールになっているものまであります。

効力にもいろいろあつて、合格祈願がんや恋愛成就れんあいじゆうじゆなどの願いごとをかなえるためのもの。交通安全や家内安全といつた無事を祈るもの。また、厄除やくよけや病氣平癒びようきへいゆなど嫌なことの消滅めつを願うもの、などなど。

しかし、本当に効力があると思つている人はどれだけいるでしょう。願ねがつたとおりにならなかつたからといって、お守りを買つた先を訴えたという話を聞くことはあまりありません。お守りが気休めでしかないことを実はわかっているのです。わかっているながら、軽い気持ちで、

だんだんとはまり込むのです。

たとえば、交通事故にあつたのは
お守りを忘れたからだとか、商売が
うまくいかなくなつたのは始めた日
が悪かかつたからだとか、不幸が続
くのは名前の画数が悪いからだとか。

問題の原因さがしに追われたり、
もつと効力のあるお守りをさがし求
めたり、振り回されていくのです。

自分にとつて良いことを追い求
め、都合の悪いことを避けようとす
る、これは人間の性分しょうぶんといつていい
でしょう。しかし、良いことだけを
追い求める生き方は、必ず悪いこと

を恐れるようになります。そして悪
いことが続くと、自分の人生までも
呪のろつたりするのです。

どのような状況に投げ出されたと
しても、自分の人生は誰とも代わる
ことはできません。しかし、それは
同時に誰とも代わる必要のない人生
なのです。お守りをもたないといふ
ことは、良し悪しを越えて、現実と
向き合つていこうとする生き方の表
現なのです。

朱印しゅいんをしない理由

そんな古い歴史をもつわけでは

ありませんが、参拝した記念に朱印を押してくれるところが数多くあります。寺の名前仏教の言葉などが添えられる場合もあります。

回ったお寺の数だけ朱印が増えていくことは楽しみでありましょう。

また、八十八箇所かじよとか三十三所というように決められた場所をすべて回ったときには、何らかの達成感があることもわかります。

でも、ちょっと待ってください。お寺とは朱印を集めるためにお参りするところなのでしょうか。それならば、一度朱印をもらえば、二度と

お参りすることはないでしょう。大事なのはお参りしたことがあるかどうかではなくて、お参りして教えに出遇であったかどうかです。また、どんな教えに出遇ったかということであるはずです。

浄土真宗の宗祖である親鸞聖人は、師の法然上人との出遇いをとおして、生涯を「ただ念仏」の教えに生きられた方です。それは念仏を称える時、どんな者も決して見捨てることのない仏の世界が、いつでも憶おもい出されてくるからでした。逆の言い方をすれば、貪むさばりや憎しみの心に

翻弄ほんろうされて、何が大切であるかをす
ぐに見失っていく自分であることを
よく知っておられたからでした。

私たちはどうでしょうか。一度お
参りしたから大丈夫とか、教えはこの
前に聞いたからもう聞かなくてもい
い、などといえるでしょうか。問題が
次々と起こってくる状況の中で、何を
本当の拠よりどころとして生きていくか
が、いよいよ問われてきているのが現
代です。お寺を回ったというような達
成感に腰を落ち着けてしまうのではな
く、教えを聞き続けようと立ち上がる
必要があるのではないのでしょうか。

八月の常例布教(法話)のご案内

○前期 八月七日(火)～十一日(土)

講師 熊本教区種山組 光澤寺
源 明龍師

○後期 八月十三日(月)～十六日(木)

講師 大阪教区天野北組 明教寺
不死川 昌史師

○場所 小樽別院内

○時間 午後二時(法要終了後)～午後三時半

浄土真宗のみ教えについて布教使にご法話をして
頂きます。どうぞお誘い合わせいただき、ご聴聞
に来院くださいますよう、お待ちしております。

発行所

☎047-0017

小樽市若松一丁目四番十七号
本願寺小樽別院
電話 (〇一三四) 二二一〇七四番
FAX (〇一三四) 二九一四〇八番
テレホン法話 二七一六一六番